

理と思ても訴ふ所なき故遂に竹槍と出掛るハ尤至極の事なり民撰議院有さえすれハ如斯無之は現前欧亜各国に於て此議院ある邦にハ一揆と云ふもの絶てなし小言あれば区会県会より国会迄其筋／＼に持出し己等の撰たる人々の説に依て定まる故箴箴を建に不及なり諸親族に宜敷言伝を希ふ

御尊父様

武夫拝

余り嘉くハ不出来共写真一枚河上に託し差上へし

(長閑注記2)

(長閑注記1)

「四月七日達し

同月十五日第四号ヲ以返書出シ」

(長閑注記2)

「右写真五月廿五日達タリ」

79 明治9年2月18日 菊池長閑宛

第二号二月十八日 (長閑注記1)

此度ハ別段申上へき事思付不申大統領撰挙ハ三月四日頃に片付可申氣候ハす暖に趣たる如し然し三月風と称し来月ハ殊の外なる冷風吹統なり去年近年稀なる大雪にて寒気格別厳敷ハ無之共撓みなく随分難凌かりしか終に風邪の氣もなく暮たり欧羅巴よりの新聞ハロシアとトルコと戦を始そうたと云ふなり日本にハ近来百姓一揆盛なりしも己に平穩の由可愛想なるハ百姓なり無